

京都・河守遺跡

- 1 所在地 京都府加佐郡大江町大字河守字角田ほか
- 2 調査期間 一九九七年(平9) 十一月～一九九八年三月
- 3 発掘機関 大江町教育委員会
- 4 調査担当者 松本学博
- 5 遺跡の種類 条里制遺跡
- 6 遺跡の年代 平安時代初期
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大江山)

河守遺跡は、大江町の中心にある河守の街の東側に位置し、由良川左岸の標高九～一mの沖積地にある。遺跡付近は旧丹後国加佐郡川守郷に属し、古来から丹波と丹後を結ぶ交通路の一つと思われる、大江山を越えて宮津へ至るルートの玄関口にあたる。

本遺跡は、条里制地割が現在の耕地地割に踏襲されている遺跡として認識されており、その耕地地割は東

西南北の方向に沿ってほぼ一町方格の碁盤目状に区画されている。調査は圃場整備事業に伴うものであり、調査の結果、現在の畦畔の真下かもしれないそれに平行して、部分的に板材や杭を用いて補強された砂利敷きの条里畦畔と思われる遺構を、東西約一五m、南北約七〇mにわたり検出した。

出土遺物は須恵器の杯身の破片が主であり、条里畦畔の中からは平安時代初期の須恵器の杯身が出土している。木簡一点は、条里畦畔脇の、八～九世紀の須恵器片を多く含む灰色粘質土層から出土した。

8 木簡の积文・内容

(1) 津丸一段

(157)×(29)×8 081

木簡は上下両端、左右両側面を欠損している。墨痕が薄く肉眼では判読しづらい。

9 関係文献

大江町教育委員会『大江町文化財調査報告書』第五集(一九九八

年)

(松本学博)

